

中学校学習指導要領解説 社会 統計関係部分抜粋

第2章 社会科の目標及び内容

第2節 各分野の目標及び内容

[地理的分野]

2 内容

(1) 世界の様々な地域

イ 世界各地の人々の生活と環境

世界各地における人々の生活の様子とその変容について、自然及び社会的条件と関連付けて考察させ、世界の人々の生活や環境の多様性を理解させる。

(内容の取扱い)

イ イについては、世界各地の人々の生活の様子を考察するに当たって、衣食住の特色や、生活と宗教とのかかわりなどに着目させるようにすること。その際、世界の主な宗教の分布について理解させるようにすること。

学習活動としては、例えば、暑い地域と寒い地域、山岳地域と島嶼地域など、特色のある自然環境とそれに関係する衣食住を事例として取り上げ、写真や映像資料などを用いて人々の生活の工夫や、伝統的生活と現代の変化をとらえるといった学習活動や、同じような自然的条件の地域を幾つか取り上げ、共通点や地域によって異なる点を探すといった学習活動などが考えられる。その際、気候や地形、民族などの分布を表した様々な主題図を活用するとともに、取り上げた事例を主題図上に位置付け、様々な事例を比較するなどの作業的な活動が取り入れられることが望まれる。

「生活と宗教とのかかわり」（内容の取扱い）とは、世界には様々な宗教があり宗教とのかかわりの深い生活が営まれていること、同じ地域でも宗教その他の社会的条件による生活の違いがみられることなどに着目させることを意味している。「その際、世界の主な宗教の分布について理解させる」（内容の取扱い）とあるのは、仏教、キリスト教、イスラム教などの世界的に広がる宗教の分布について分布図を用いて大まかに把握させ、歴史的分野の学習とも関連付けて理解させることを意味している。なお、分布図を扱う際には、分布の境界は必ずしも明確に分けられないものであることなどに触れ、分布図を読み取る上での留意点を示すことが望ましい。

エ 世界の様々な地域の調査

世界の諸地域に暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる地理的事象を取り上げ、様々な地域又は国の地域的特色をとらえる適切な主題を設けて追究し、世界の地理的認識を深めさせるとともに、世界の様々な地域又は国の調査を行う際の視点や方法を身に付けさせる。

(内容の取扱い)

エ エについては、様々な資料を的確に読み取ったり、地図を有効に活用して事象を説明したりするなどの作業的な学習活動を取り入れること。また、自分の解釈を加えて論述したり、意見交換したりするなどの学習活動を充実させること。

「世界の様々な地域又は国の調査を行う際の視点や方法」の「視点」は、世界の人々の伝統的な生活・文化と自然環境や社会環境、歴史的背景、他地域との共通性、異質性や結び付きなどに着目することを意味している。「方法」とは、調査の対象が直接経験地域ではないことから、各種の地図や統計、百科事典、インターネットからの情報、DVDや写真、読み物や紀行文、旅行経験者の体験記など、調べる主題にふさわしい適切な資料を選択し、読み解き、関係付けながら進めることを意味している。

地図には、種類や縮尺により多様な利用の仕方がある。地図帳には、地形や植生、都市の規模や交通機関、地名や行政界、土地利用などの地域の状況を様々な記号を用いて表現している「一般図」と、工場分布や土地利用、鉄道・道路交通などの個別の主題を取り上げ、様々な調査資料や統計などを活用してグラフ化したり、その状況を表現したりした「主題図」などが掲載されている。縮尺については、大きな縮尺の地形図や小さな縮尺の大陸別の地勢図などの地図があり、その他に面積や形状、方位や距離などの特定の事項を正確に表現するために工夫された様々な地図がある。

調査活動に地図を活用する際には、調べる地理的事象や地域が地図上のどこにあるかを確認するだけでなく、土地利用などを表した主題図などから、地域の地形と土地利用の関係を考察したり、気候図を併用して降水量の分布と土地利用の関係を明らかにしたりして、事象間の関係を読み取る学習活動が重要となってくる。

統計資料は、一般的に国家を単位としたものが多いため、国家規模の地域的特色を調査したり、比較したりする場合の資料としてふさわしい。この統計資料を活用して、国別の状況を階級区分図やドットマップなどとして表現することは、地域や国の地域的特色を把握する上で有効な資料となる。

世界の「様々な地域又は国の地域的特色をとらえる適切な主題」とは、地理的分野の目標の(2)にもある「世界の地域の諸事象を位置や空間的な広がりとかかわり度とらえ、それを地域の規模に応じて環境条件や人間の営みなどと関連付けて考察し、地域的特色や地域の課題をとらえさせる」ねらいを達成しやすい主題を設定することが望ましい。

学習した地理的事象の中で、さらに追究してみたい内容や日ごろからの興味・関心を抱いたり、新聞・テレビなどで話題になったりしている地理的事象を整理しながら、その中から適切な主題を決定させる学習を丁寧に進めることが望まれる。調べる主題によって学習の見通しが立てやすくなったり、調査意欲が減退してしまったりするからである。生徒が主題を設定しきれない場合

には、グループで話し合わせたり先輩が取り組んだ主題一覧を示したりして、主題設定のヒントやきっかけを与える学習が有効となってくる。

調べる主題としては、次のようなものが取り上げられる。

- ① 世界各地の特色ある自然環境とかかわりの深い衣食住などの生活・文化とその変化の様子に関する主題
- ② 「イ 世界各地の人々の生活と環境」「ウ 世界の諸地域」で学習した興味・関心ある地理的事象をさらに探究する主題
- ③ 教科書や地図帳、各種の地図や文献などから発見した、世界の人々の生活に関する興味ある地理的事象を基にした主題
- ④ 日常生活や新聞、テレビなどで関心を抱いた世界の国々に関する地理的事象を基にした主題
一般的に地理的事象を取り上げて調査する方法は、その調べる主題によって異なるが、およそ次のような段階がある。

- ① 主題の設定：調べる内容について焦点化し、主題として設定する。
- ② 調査方法の吟味：何を明らかにしたいのかの調査のねらいを定め、どのような調査方法を行うかについて、調査の見通しを立てる。
- ③ 資料の収集と選択：調査を始めるに当たって、主題を明らかにするために、必要な各種資料とその収集方法を吟味し、資料の収集、選択を行う。
- ④ 調査活動：調査のねらいにより、収集した資料を活用してその内容を読み取ったり、地図化したりする。
- ⑤ レポートの作成：調査した結果を整理し、ふさわしい記述や説明の方法を考え、レポートにまとめる。
- ⑥ 発表会などの開催：調査内容にふさわしい方法を用いて発表する（学級内発表会、レポートや作品の掲示発表など）。

上記①の「主題の設定」に当たっては、まず内容の(1)のイ、ウの学習を開始する前に、「世界の様々な地域」の学習のまとめとして、「世界の様々な地域又は国の地域的特色」について調べ学習を行うことを予告し、各自が調べたい主題を意識しながら学習する雰囲気を作り出すことが大切である。主題の設定ができれば、後の調査方法の見通しが立てやすいからである。

主題の設定に当たっては、あまり大きなものとせず、日ごろの関心事や自分たちの生活との接点があり具体的なもので、かつ調査資料の得やすいものが望ましい。さらに、調査事項の記述やまとめが地図に表現できるものかどうかのも一つの選択肢である。

②の「調査方法の吟味」では、「なぜこの地域には、このような地理的事象がみられるのか」「なぜこの地域には、このような特色ある生活・文化が根付いているのか」といった問いかけを基にして課題を見だし、その解決のための適切な資料を選択、収集する見通しを立てることが必要である。

③の「資料の収集と選択」は、課題の解決に役立つ資料には何があるかを考えるとともに、必要な資料を収集することである。

④の「調査活動」は、「なぜこの地域にはこのような地理的事象がみられるのか」「なぜこのような地域的特色をもっているのか」という問いかけを基にして、課題を解き明かしていくことが必要である。その際には、様々な資料を的確に読み取ったり、地図を有効に活用して事象を説明したりするなどの作業的な学習活動を取り入れるとともに、資料の処理や分析に力を入れるなどの取扱いの工夫が求められる。

⑤の「レポートの作成」では、調べた結果を文章で表現したり、グラフや表にして分かりやすく示したり、地図を活用して表現したりすることがポイントになる。地図は、諸事象を位置や空間的なかわりごととらえる上で効果的な表現手段となるからである。

レポートの作成に当たっては、調査方法や内容の概要を相手に的確に伝えるために、基本的な記述の構成や仕方があることを理解させることが大切である。次に示した項目は、その一般的な構成例である。

- 1) 調査の動機：なぜ、この主題を選んだのか。どんなことに興味や関心、疑問をもったのかを書く。
- 2) 調査の目的：この調査で何を知りたいのか、分かりたいのかを書く。
- 3) 調査の方法：いつ、どこで、どんな方法で何を調べていくのかを書く。
- 4) 調査の内容と結果の考察：調べて分かったことを調査前の予想と比べたり自分の解釈を加えたりして論述するとともに、図表や写真、地図などを入れて具体的にまとめる。
- 5) 感想や今後の課題：調べて分かったことに対して、どんなことを感じたかを記述するとともに、もっと深めてみたい内容をまとめる。
- 6) 参考資料など：調査に用いたり、参考にしたりした書籍名などを記す。

レポートの作成に当たっては、調査結果も大切であるが、事実と自分自身が考えたり解釈したりしたこととははっきり分けて書くこと、そのように判断した根拠を示してまとめること、図や表を使ったり地図上に表現したりすること、要点を自分の言葉で簡潔にまとめることなどに留意することが大切である。

以上のように、この中項目では生徒自らの調査、探究活動を通して、①世界の興味・関心ある地理的事象を見だし、調べる主題を設定する、②主題を多面的・多角的に調査、考察、探究する。その際に地図や統計、文献、インターネット情報等の諸資料を読み取り、有効に活用する、③調査結果を分析・整理してレポートにまとめ発表するといった活動を展開し、地理的な見方や考え方や地理的技能を身に付けさせることに留意して指導に当たることが望まれる。

国際化、情報化など社会の変化の激しい時代にあっては、主題を追究、考察して調べ方や学び方を身に付けることが大切であることはいままでもない。内容の(1)のア、イ及びウで習得した知識、概念や技能を活用して、興味・関心ある世界の地理的事象を調査、探究することで、地域的特色をとらえる調べ方や学び方の視点や方法を身に付けることができる。

(2) 日本の様々な地域

イ 世界と比べた日本の地域的特色

世界的視野や日本全体の視野から見た日本の地域的特色を取り上げ、我が国の国土の特色を様々な面から大観させる。

(内容の取扱い)

イ イの(ア)から(エ)で示した日本の地域的特色については、指導に当たって内容の(1)の学習成果を生かすとともに、日本の諸地域的特色について理解を深めるための基本的な事柄で構成すること。

「内容の(1)の学習成果を生かす」(内容の取扱い)ことを踏まえて世界的視野から日本の地域的特色を取り上げることについては、例えば、次の二つの場合を踏まえて比較し関連付けることが考えられる。①例えば世界の気候区分図のように、世界を大きく地域区分しているようなものである場合は、日本がどの気候区に位置付けられているかということから日本の地域的特色を理解する。②例えば産業統計のように、国を単位にして集計されているものについては、各国の比較によって日本の地域的特色を理解する。いずれの場合であっても日本を一つの地域として取り扱うことを工夫し、世界的視野から日本の地域的特色を理解する際の取り扱い方について学習するようにする。

(イ) 人口

世界的視野から日本の人口と人口密度、少子高齢化の課題を理解させるとともに、国内の人口分布、過疎・過密問題を取り上げ、日本の人口に関する特色を大観させる。

「世界的視野から日本の人口と人口密度、少子高齢化の課題を理解させる」とは、我が国は人口が1億人を超える数少ない国の一つであること、世界の人口分布図をみると、不均等な分布が目立つ中で、我が国は人口集中地域の一つになっていること、また、世界には人口の増減や移動などに伴う様々な人口問題がみられる中で、我が国の場合は世界に類をみない速さで少子化、高齢化が進んだことに伴う課題に直面していることに特色がみられるといった程度の内容を取り扱うことを意味している。その際に、人口分布図や人口ピラミッドを読み取る作業を取り入れるなどの工夫が必要である。

ウ 日本の諸地域

日本を幾つかの地域に区分し、それぞれの地域について、以下の(ア)から(キ)で示した考察の仕方を基にして、地域的特色をとらえさせる。

「以下の(ア)から(キ)で示した考察の仕方」とは、「(ア) 自然環境を中核とした考察」「(イ) 歴史的背景を中核とした考察」「(ウ) 産業を中核とした考察」「(エ) 環境問題や環境保全を中核とした考察」「(オ) 人口や都市・村落を中核とした考察」「(カ) 生活・文化を中核とした考察」「(キ) 他地域との結び付きを中核とした考察」の七つである。これらの「考察の仕方」は、中核とした地理的事象と、それをどのような他の事象と関連付け、どのようなことに着目して考察すればよいのか、地域的特色を追究し考察する方法を示しており、このような学習を通して地理的な見方や考え方の基礎を培うことができる。

(ア)から(キ)の各考察の仕方ごとの学習は、概略、以下のように構想することが考えられる。

(ウ) 産業を中核とした考察

地域の農業や工業などの産業に関する特色ある事象を中核として、それを成立させている地理的諸条件と関連付け、地域に果たす産業の役割やその動向は他の事象との関連で変化することなどについて考える。

「(ウ) 産業を中核とした考察」を基にする場合、次のような学習展開が考えられる。

<地域的特色を示す地理的事象を見いだす段階>

例えば、中部地方を取り上げ、全国規模の主題図や都道府県別の統計などの資料を活用して日本全体の視野から中部地方の特色を見ると、「太平洋側の愛知県や静岡県は、全国的にみて工業生産額が高い」「日本海側は全国的にみて水田率の割合が高い」「中央部の長野県や山梨県では果樹の生産額が高い」といった産業に関する特色をとらえることができる。また、地図帳を活用して中部地方を概観すると、「太平洋側に輸送機械工業が集積している地域がみられる」「中央部の盆地で果樹園が、八ヶ岳周辺で畑の分布がみられる」「日本海側では平野部を中心に田が卓越している」といった地理的事象を見いだすことができる。

<中核とした地理的事象を他の事象と関連付けて追究する段階>

そこで、例えば「全国的にみて、各産業に占める中部地方の割合が高い理由を追究しよう」といった課題を設定して、中部地方の産業に関する特色ある地理的事象を取り上げ中核に据える。そして、それを自然環境や消費地、原料供給地との関係など、その産業を成立させている地理的諸条件と関連付けて追究する。その際、前述の課題を追究するために「日本海側で稲作が盛んな理由を調べよう」「愛知県や静岡県で輸送機械工業が発達した理由を調べよう」といったサブテーマを設定し、地域を細分して学習することも考えられる。

そのような各地域の産業の立地や動向などについての追究を通して、中部地方の地域的特色を理解させる。その際、それぞれの地理的事象を追究した結果を比較することで、例えば「東海地域と中央高地の野菜生産を比べると、名古屋や東京など大消費地との位置関係が影響している点

が共通している」「地域の産業の動向は、技術の発達や他地域との関係などにより変容している」といった共通性についてもとらえさせることが望まれる。また、「水田単作を特色とする北陸地域」といった地域の等質性に着目させ、改めて地域区分の意味を考えさせることもできる。

< 追究の過程や結果を表現する段階 >

学習のまとめとして、中部地方の産業に関する地理的事象を中核として、それを成立させている地理的諸条件と関連付けて追究した過程や考察の結果を、分布図や地図などを活用して発表したり、簡単な説明文にまとめたりするなどの言語活動を位置付ける。

エ 身近な地域の調査

身近な地域における諸事象を取り上げ、観察や調査などの活動を行い、生徒が生活している土地に対する理解と関心を深めて地域の課題を見だし、地域社会の形成に参画しその発展に努力しようとする態度を養うとともに、市町村規模の地域の調査を行う際の視点や方法、地理的なまとめ方や発表の方法の基礎を身に付けさせる。

(内容の取扱い)

エ エについては、学校所在地の事情を踏まえて観察や調査を指導計画に位置付け実施すること。その際、縮尺の大きな地図や統計その他の資料に親しませ、それらの活用の技能を高めるようにすること。また、観察や調査の結果をまとめる際には、地図を有効に活用して事象を説明したり、自分の解釈を加えて論述したり、意見交換をしたりするなどの学習活動を充実させること。なお、学習の効果を高めることができる場合には、内容の(2)のウの中の学校所在地を含む学習と結び付けて扱ってもよいこと。

「観察や調査などの活動を行い」の「観察や調査」とは、野外での観察や地域調査を意味している。この項目は、地域に広がる景観を対象にしてその中から地理的事象を見だし、自分たちの観察や調査の活動を通して資料を作り、それらを基に地域的特色をとらえたり地域の課題を見だし考えたりすることができるといった点に特質がある。それだけに、野外での観察や調査は重要な役割を担っており、各学校は、「学校所在地の事情を踏まえて観察や調査を指導計画に位置付け」(内容の取扱い)で実施する必要がある。その際、「学校所在地の事情を踏まえて」とは、例えば、都市部の地域の学校と農村部の地域の学校とでは、学区域の大きさや取り上げる事象、訪問先などに違いがあることから、それぞれの地域の事情を踏まえた観察や調査を工夫する必要があることを示している。また、「指導計画に位置付け」とは、野外での観察や調査を実施するに当たっては、地域の人々の協力を得るなど事前の準備が必要になってくることなどから、年間計画にしっかりと位置付けて実施するようにする必要があることを意味している。なお、「観察や調査など」の「など」は、「学校所在地の事情」などから野外での観察や調査の実施が困難な場合、地図、画像、統計などを基に地理的事象を読み取り、調べ、追究する学習を行うことを考慮したものである。

直接経験地域であることを踏まえた身近な地域の調査には、次のような特質がある。第1は、既述のとおり、景観を対象にして観察、調査し、それを基に地域の課題を見だし、考察することができるということである。第2は、自分たちの観察や調査の活動を通して資料を作り、それを基に地域の課題を見だし、考察することができるということである。第3は、季節の変化などを考慮して1年間を通じて地域の課題を見だし、考察することができるということである。第4は、生徒の生活とかかわる地域なので課題を見だし、考察しやすく、互いにその課題について意見交換をしやすいということである。

第1の特質にある景観は、地域の環境条件、他地域との結び付き、そこに居住する人々の営みを総合的に反映している。したがって、景観から読み取った地理的事象を追究すると、他の要素も有機的に関連付けられ、地域的特色をとらえ、地域の課題を総合的に見だし、考察する基本を学習することができる。一方、景観は現実、現状そのものであり、地図や統計などのようにある規則の

下に必要なものだけを取り出すといった作業を経たおらず、このため、様々な事象が取捨選択されることなく存在し広がっている。それだけに、どのような事象に着目し何を捨象するか、取捨選択して残った事象を位置や空間的な広がりとのかかわりでどのようにとらえるか、すなわち、地理的事象としてどう見いだすかといった能力が問われることになる。したがって、そうした学習は景観をみる観察眼を磨き、地理的事象を自ら見いだす能力を培う上で効果的である。地域に広がる景観を対象にして観察、調査を行うことは地理学習の基礎であり、重視して扱うことが必要である。

また、第2の特質に関連して、例えば地域住民を対象にした聞き取り調査やアンケート調査も、この規模ならではの調査方法として考えられる。その際、安全面への配慮を十分に行うとともに、地域社会の人々との触れ合いの場を大切に、日常的なあいさつや調査目的に沿った会話ができるようにするなどの機会として活用することにも留意する必要がある。さらに、第3の特質に関連して、一般に既製の地図や統計では季節性が考慮されていないことが多いことから、例えば季節ごとの土地利用を調べて図を作り、比較するなどの工夫をすることが考えられる。第4の特質に関連して、言語力育成の観点から、例えば生徒の日常の生活にかかわる地域の課題に対してその要因を分析し、問題の所在や将来の姿を提案し、互いに意見交換を図ることなどが考えられる。

この中項目における、地域的特色をとらえ、地域の課題を見だし、考察するための調査項目例として、都市部の地域では地域の人口の推移、周辺の店舗、公共機関、事業所、歴史的遺産などの種類や分布、地形、建物の形状、公共交通機関のルートや道路の幅や形状などが考えられる。また、農村部の地域では生産物の種類やその自然的条件や社会的条件を踏まえた栽培方法や土地利用、農業用水路のルートなどが考えられる。生徒はこのような調査項目で分布図や主題図を作成することで、対象とする地理的事象やその空間的な配置や秩序を成り立たせている背景や要因をとらえやすくなる。

「地理的なまとめ方や発表の方法」とは、「観察や調査の結果をまとめる際には、地図を有効に活用して事象を説明したり、自分の解釈を加えて論述したり、意見交換したりするなどの学習活動を充実させること」（内容の取扱い）とあるように、観察や地域調査の結果を、地域の課題と関連付けてまとめることと、地図化するなどの工夫をして表現し、発表することの二つを意味している。

なお、観察や調査結果をまとめたり発表したりする際には、観察や調査結果だけでなく、観察や調査結果を基に各自が解釈をすることを重視する観点から、結果を根拠に合理的な解釈になるよう意見交換しながら、多面的・多角的に追究したことが分かるようなまとめ方や表現の方法を工夫することが大切である。また、発表や論述する場合において、調査結果から読み取れた事実なのか、それに基づいた自分の解釈なのかが明確に区別できるように表現する必要がある。

身近な地域の調査の進め方としては、例えば次のような手順が考えられる。

- ① 取り上げる地理的事象を決める。
- ② 地理的事象をとらえる調査項目を決め、野外での観察や調査を行う。
- ③ とらえた地理的事象について分布図等に表す。
- ④ 傾向性や規則性を見だし、地形図や関係する主題図と見比べてみる。
- ⑤ 地理的事象を成り立たせている要因を調べ、関連を調査する。

⑥ 地域的特色としてまとめ、地域の課題や将来像について考察し意見交換する。

⑦ 地図等に分かりやすくまとめ、調査結果を発表する。

人口の推移を中心にした調査例として、例えば、次のような学習展開が考えられる。

<学習展開の概略>

まず、学区域を野外観察させる中で、生徒は農地の宅地化が進んできていることや郊外型の大型店舗には多くの客が集まってきていることに気付き、学区域の人口の推移に着目する。次に地図を活用して学区域をさらに細かい地域に分け、その細かい地域ごとに人口の増減についての地域的傾向性に気付かせ、人口分布の偏りが顕著になっているという地域的特色をとらえさせる。次に、このような人口の分布がさらに顕著になった場合、新たに出てくる課題について調べた地域の変容の資料を基に根拠を示しながら、小グループでの意見交換を通して考えさせる。

<主題図の作成について>

観察や調査の結果をまとめさせる際には、対象としている地域の縮尺の大きい都市計画図などを活用し、人口の増加時期が異なることが分かるように地域を細かく色分けするなどの工夫をさせたり、店舗などの利用客数などグラフで色分けして表すようにさせたりするなど、地図を有効に活用してまとめるよう指導することなどが考えられる。生徒はこのような分布図を作成する中で、人口が増えてきている地域には宅地化の進行や大型店舗の進出がみられ、両者には密接な関係があることが次第に分かってくる。

<言語活動について>

この地域の今後の課題を考えさせると、生徒はまだ宅地化されていない地域が開発されていくことによって、人口の偏りがさらに顕著になり、一方で人口が減少していく地域が広がり、従来からの商店街が活気を失ってくる可能性があることが分かってくる。このような気付きを、調査したグループなどで意見交換する中で、合理的な解釈になるよう互いに補い合いながら、まとめさせていく。

発表の際には、調査活動で作成した地域の地形や人口の増減の傾向を地区ごとに見やすくした地図、複数の店舗と宅地との位置関係などを描き入れた地図、地域ごとの各店舗の利用客数のグラフなどの解釈の根拠となった地図や調査データをグラフにしたものなどを用いて、地図やグラフなどから読み取れることと読み取った事実から自分が解釈したこととを分けて説明させる。

「縮尺の大きな地図や統計その他の資料に親しませ、それらの活用の技能を高めるようにすること」（内容の取扱い）における「縮尺の大きな地図」とは、5万分の1よりも縮尺の大きな地図を意味している。また、「統計その他の資料」とは、衛星画像、統計、文書資料、映像資料、現物資料などを意味している。「活用の技能を高める」とは、例えば、それらの地図をもって現地に行き、地図と現地との対応関係を学んだり、地図から関心のある地理的事象を発見したり、地図から地域的特色をとらえ、地域の課題を見だし、考察したりするなどの活動を通して読図に関する技能を高めることや、観察や調査の活動を通して明らかになったことを地図上に描くといった作図に関する技能を高めたりすることを意味している。「統計その他の資料」に関しては、諸資料の読み取りや解釈などとともに、統計のグラフ化や地図化などの作業を通して地域の課題を見だし、考察す

るかたちで、活用の技能を高めることを意味している。

「学習の効果を高めることができる場合には、内容の(2)のウの中の学校所在地を含む地域の学習と結び付けて扱ってもよいこと」（内容の取扱い）とは、例えば身近な地域における高速道路の整備による内陸部への企業進出といった他地域との結び付きにかかわる地理的事象を、内容の(2)の「ウ 日本の諸地域」における学校所在地を含む地域の中核となる事象と関連付けて指導したり、野外での観察や調査に適した時期に調査したりすることなどにより学習の効果を高めることが可能な場合には、学校所在地を含む地域の学習の中に身近な地域の調査を位置付けて指導することができるようにしたものである。

[公民的分野]

(1) 私たちと現代社会

ア 私たちが生きる現代社会と文化

現代日本の特色として少子高齢化，情報化，グローバル化などがみられることを理解させるとともに，それらが政治，経済，国際関係に影響を与えていることに気付かせる。また，現代社会における文化の意義や影響を理解させるとともに，我が国の伝統と文化に関心をもたせ，文化の継承と創造の意義に気付かせる。

(内容の取扱い)

ア アについては，次のとおり取り扱うものとする。

(7) 地理的分野，歴史的分野との関連を図り，現代社会の特色をとらえさせるようにすること。

現代社会の特色をとらえさせたり，それらが政治，経済，国際関係に影響を与えていることに気付かせる際には，地理的分野，歴史的分野などとの関連を図ったり，写真や統計資料を用いるなど工夫が求められる。例えば，高度経済成長のころと現在の情報通信機器の写真とを比較したり，聞き取り調査をして社会生活がどのように変化したかをまとめたりするなどして，現代日本の特色が理解できるよう配慮することが求められる。

(2) 私たちと経済

イ 国民の生活と政府の役割

国民の生活と福祉の向上を図るために、社会資本の整備、公害の防止など環境の保全、社会保障の充実、消費者の保護など、市場の働きにゆだねることが難しい諸問題に関して、国や地方公共団体が果たしている役割について考えさせる。また、財源の確保と配分という観点から財政の役割について考えさせる。その際、租税の意義と役割について考えさせるとともに、国民の納税の義務について理解させる。

「租税の意義と役割」については、統計資料などを有効に活用しながら租税の大まかな仕組みやその特徴にも触れ、国民生活に大きな影響力をもつ財政を支える租税の意義や税制度の在り方について考えさせることを意味している。また、「国民の納税の義務」については、国民が納税の義務を果たすことの大切さを理解させるとともに、税の負担者として租税の使いみちなどについて理解と関心を深めさせるなど納税者としての自覚を養うことが重要である。